

ルツク・アツト・ニシー！

◎登場人物

渡辺 翔太（ワタナベ ショウタ） 29歳

市川 拓海（イチカワ タクミ） 29歳

斉藤 志保（サイトウ シホ） 25歳

桂木 ユキ（カツラギ ユキ） 25歳 ※実際は29歳

## ○プロローグ

舞台にはまだ幕が下りている。

幕前に、ユキが現れる。

手にはシャボン玉セット。

「シャボン玉」の音楽がかかる。(ロック風アレンジ)  
激しく歌いだすユキ。

ユキ シャボン玉飛んだ

屋根まで飛んだ

屋根まで飛んで

こわれて消えた

ユキ、シャボン玉を吹く。

作ったシャボン玉を眺める。

ユキ あ、私が映ってる。世界が映ってる。世界はこんなにも美しいのに、  
どうして私の顔は醜く歪んでるんだろう。

シャボン玉が消える。

ユキ あーあ。消えちゃった。

暗転。

## ○第一幕

幕が開く。

それは、ある土曜日の夜の出来事。

舞台は翔太の自宅。

アパートの一室。

上手にはドアがある。

部屋でくつろぐ翔太と拓海。

翔太はパソコンの前に座っている。

拓海はテレビの前でゲームをしている。

ユキがチャイムを鳴らす。

拓海 何だよー。こんな時間に。

翔太 宗教の勧誘とかじゃない？

拓海 出ないの？

翔太 対応するの面倒くさい。

再びチャイムを鳴らすユキ。

拓海 翔太、うるさいぞ。

翔太 俺のせいじゃないだろ。

拓海 もう出ちやえよ。明かりついてるから居るのばれてんだよ。

さらにチャイムを鳴らすユキ。

翔太、いやいや立ち上がりドアに向かう。

翔太 はい。

ドア越しに声を出すユキ。

ユキ 突然すいませーん。私、桂木ユキと申します。

翔太 はあ。

ユキ あの、渡辺さんのお宅でよろしいでしょうか。

翔太 はい。

ユキ 実は、私、昔ここに住んだ山本紘子の友人なんです。

翔太 はあ。

ユキ なので中に入れてもらえませんか？

翔太 は？

ユキ 入れてください。

翔太 いやいやいやいや、あなたがその山本紘子さんとかいう人と知り合いだったとしてなんで家に上げなきゃいけないんですか。おかしいでしょ！

ユキ そこをなんとか。

翔太 なんとかって言われましてもね……。

ゲームを中断し、ドアの方へ寄ってくる拓海。

拓海 なになになになに？ もめごと？ もめごと？

翔太 なんで楽しそうなんだよ。

ユキ お願いです。入れてください。

再びチャイムを鳴らすユキ。

翔太 もう帰ってください。

ユキ ……。入れてくれるまでここを動きません。

拓海 だれだれだれだれ？ 浮気相手かなんか？

翔太 なんでそーなんだよ！

拓海 そりゃそうか。お前彼女いねーもんな。

翔太 うるせーな！

ユキ 入れてください。

翔太 警察呼びますよ！

拓海 警察沙汰かよ！

翔太 (小声で) だつてさあ。

ユキ 警察は困ります。

翔太 じゃあ帰ってください！

拓海、翔太の肩を叩く。

拓海 待て待て。俺に任せろ。

翔太 はあ？

拓海 まずは、敵情視察だな。

拓海、ドアの覗き窓を覗く。

覗くなり急にテンションを上げる拓海。

拓海 ちよちよちよちよちよちよちよーいっ！ おい翔太！ おい翔太！

翔太 なによ。

拓海、翔太を引つ張って部屋の隅へ行く。

翔太 なんだよ！

拓海 え？ なにあの子！ 超かわいいじゃん！超タイプ！

翔太 はあ？

拓海 あんなかわいい子が家入りたがってんだろ？ 入れてやろーよ！

翔太 バカじゃないの！ こえーよ！ あんなの！

拓海 いや、こりやあれだよ。うまくすると付き合えるかもしれねーぞ！

翔太 な訳ねーし！ そもそもお前彼女いるでしょ！

拓海 メンヘラは扱いやすいんだって。

翔太 知らんけど。

拓海 なんかよくわからんけど、前ここに住んでた人の知り合いなんです

よ？ いいじゃん。入れてやろうぜ。

翔太 やだよ。ストーカーみたいで怖いでしょ。

拓海 隙ありっ！

翔太 あっ！ バカ！ お前！

拓海、翔太を押しつけドアの元へ走り鍵を開け、ドアを開ける。

ユキ あっ。

拓海 初めまして。俺、ここに住んでる翔太の友人の市川拓海。どうぞどう

ぞ。中入ってください。

ユキ 初めまして。私、桂木ユキと申します。

ユキを促す拓海。

拓海 ほら、入って入って。

ユキ お邪魔します。

翔太 拓海！ お前！ 俺んちだぞここ！

拓海 まあまあ。もう半分俺んちみたいなものじゃん。毎週来てるわけだし。

翔太 みたいなものじゃないでしょ！

ユキ あ！ やっぱりベッドの位置はそこなんですネ！ お日様当たります

もんね！ 紘子もそこにベッド置いてました。

翔太 知らないですよ。

拓海 まあまあ、とりあえず座って座って。

ユキ あ、すいません。

拓海 翔太！ お茶！

翔太 え？

拓海 お客さん来たからお茶出すっしょ！

翔太 お前なあ……。親しき仲にも礼儀ありって言葉知ってるか？

拓海 まあまあ！ とりあえずお茶お茶！

翔太 わかったよ。

ユキ、ちよこんと座り部屋を見渡す。

ユキ ここが……。私、男の人の部屋って初めて入りました。

拓海 マジで？ 意外！

ユキ なんか、緊張しますね。

拓海 さっきまでぐいぐい来てたくせにー！

ユキ、苦笑。

翔太、お茶を持ってくる。

ユキ あ、すいません。

翔太 用が済んだらさっさと帰ってもらいますからね。

翔太、お茶を置いてパソコンの前に座り、ケータイで何かを打ち込む。

拓海 冷たいなー翔太は。いいんだよー。ずっとここにいて。

翔太 だから俺んち！

拓海 ほいほい。

ユキ あ、そういえばここの1階って、あの、すごい強面のおじさん住んでませんか？

拓海 いたっけ？

翔太 あー見かけたことあるかもしれない。

ユキ、突然床をドンドン殴り出す。

翔太 ちよちよちよちよ！ 何！ 何してんすか！

拓海 怖い怖い！

ユキ (笑って) あ、大丈夫です。紘子とこの下の階のおじさん、知り合いなんで。

翔太 大丈夫じゃないですよ！ 俺がやったと思われるでしょう！ その人住んでたの昔！

拓海、笑う。

拓海 おもしれーなー。

翔太 拓海お前他人事だと思って！

拓海 他人事だもーん。

ユキ あ、そういうえばここ家賃いくらなんですか？

翔太 何ですか急に。

拓海 確か6万5千円だよな？

翔太 いなよ！

ユキ やっぱり下がってるんですねー。

翔太 はい？

拓海 やっぱりって何？

ユキ いや、ここで死んでるんですよ。

翔太 は？

ユキ ……そこで手首切って。

拓海 マジ？

ユキ 何年か前に、私の友達、山本紘子がここで……。

間。

緊張感が走る。

ユキ ま、嘘なんですけどね。

拓海 ああああああああああああああ！ びびった！ マジびびった！

翔太 そりやそうだろ。人死んでたら不動産屋がちゃんとやわなきやいけな  
いんだから。

拓海 うわー！ ズワツとした。翔太お前よく冷静でいられるな。

翔太 拓海がお人好し過ぎんだよ。得体も知れない女の話信用しすぎ。

拓海 いや、でも今のはマジビビるって！ 俺もう見えた気がしたもん！何  
ならこの人が幽霊に見えたもん！

翔太 で、桂木さん。でしたっけ？ そんな嘘はどうでもいいんですけど、  
実際どうしてうちにいらつしやっただんですか？

ユキ 探してるんです。山本紘子を。

翔太 探してる？

ユキ 死んだって言ったのは嘘なんですけど。行方が分からないんです。連  
絡先も変えてるみたいで……。ここに住んでたっていうのは知ってたんで  
何か手がかりないかなって……。

拓海 手がかり…ねえ。

翔太 そもそもその、山本さん？ 自体今日初めて聞いた名前ですしね。

ユキ なんか、家に手紙とか残ってたりとか？

拓海 俺引越し手伝ったけどそんなもんなかったよな！。

翔太 そもそもあったとしても、引越す前に大体クリーニング入るからそ  
の時に処分されちゃってるんじゃないですか？

ユキ まあ、そうですね。

翔太 それに、人探したら興信所とかに頼めばいいんじゃないですか？

ユキ 興信所も考えたんですけど……。お金がなくて。

拓海 結構かかるっていうもんなあ。

翔太 1日5万とかだっけ？

そこへ志保がやってきてチャイムを鳴らす。

拓海 今日は来客が多いなあ。

翔太 本当に。

拓海 今度は普通にでとけよ。うるさいから。

翔太 はいはい。

翔太、ドアに向かう。

翔太 はーい。

志保が勝手にドアを開ける。

翔太 あ、斉藤さん。

志保 たっくん来てるでしょ！ 通して！

翔太 え？ちよつと。

志保、部屋の中に入って行く。

拓海 志保！

志保 またここにいる！ なんでよ！ 毎週毎週毎週毎週さあ！ そんなに翔太くんが好きなら翔太くんと付き合えばいいじゃん！

拓海 何言ってるんだよ！ 落ち着けて！

志保 せっかくの土曜日なのに！ 私とはどこも行ってくれないくせに！

拓海 平日はちゃんと会ってるんだろ！

志保 足りないの！ 休みの日もちゃんと一緒にいたいのに！

翔太 あの一。頼むからボリューム下げてください！ 近所迷惑だから。

志保 あ、ごめん。翔太くん。

志保、ユキに気づく。

会釈するユキ。

志保 誰よこの女！ 私とは遊ばないでこんな子とは遊んでるわけ！ どー

ゆーこと！

ユキ あ、いえ、私は。

拓海 違えよ！ この子はさつき知り合ったばっかなの！ 全然そーゆーんじゃねーから！

志保 じゃあなんなのよ！ 翔太くんの彼女とでもいうわけ？

拓海 (翔太をチラッと見て) ま、まあそんなようなもんだ。

翔太 (小声で) おいっ！ 嘘つくな！

拓海 (小声で) だって説明面倒くさいんだもん。

志保 ふーん。 (ユキを舐め回すように見る) 翔太くん、こういう子がタイプなんだ。

翔太 いやっ違っ。

ユキ 違います。私この人の彼女でもなんでもありません。彼女なんて思われたら渡辺さん、迷惑ですよね？

翔太 いや、迷惑というかその……。

志保 なーんだ。付き合う前のいい感じな時期ってわけねー。

拓海 翔太、すまん。志保はバカなんだ。

志保 バカって何よ！ 元はと言えばたつくんが！

拓海 はい近所迷惑！しーっ。

志保 じゃあ帰ろうたつくん！

拓海 まあ待て。実はちょうど今、志保もここに呼ぼうと思ってたんだよ。

なあ翔太！

翔太 え？は？

拓海 青年探偵団結成だ！

翔太 は？

拓海 なーんか楽しいことないかなーってき。なんか面白いことしてーなあって常々言ってたる俺ら！

翔太 まあそうだけど。だけどそれがどう……。

拓海 俺たちもう気付いたら29だ！ 来年には三十路！ おっさんになる前にさ！ こう、何っーか物語の主人公になってみよーぜ？

翔太 お前酔ってんの？

拓海 志保はやるだろ！ 青年探偵団！

志保 たつくんが楽しそうだからするー！

拓海 俺は別にお前を放つといたわけじゃないんだよ。こーゆーチャンスをと！ 一緒に面白いことするチャンスを待ってたんだよ！

志保 そうなの？

拓海 ああそうさ！ 一緒にやろうぜ！

志保 いえーい！

拓海、志保ハイタッチ。

ユキ 全くわからないんですけど。探偵ってことは私に協力してくれるって  
ことですか？

拓海 そーゆーこと！探してやるよ！ 山本絃子をな！

翔太 なんで急に家に押しかけてきた人の人探し手伝わなきゃいけないんだ  
よ。

拓海 翔太！ 答えはひとつだ！ 面白そうだから！

翔太 あのな……。

拓海 この退屈を抜け出そうぜ！

拓太 面倒が増えるだけだと思っうけどね。

拓海 そうと決まれば依頼人の桂木ユキさん！ 詳しいお話聞かせてね！

ユキ 協力してくれるんですか？

拓海 もちろん！

志保 もう、うちとユキちゃん？ はマブだから！ あ、うち志保！ よろ  
しく！

志保、無理やりユキと握手する。

ユキ 渡辺さんは……。渡辺さんも協力してくれるんですか？

翔太 いや、うーん。まあ、流れる的に。

ユキ ありがとうございます！

拓海 それで、だ。その、元々ここに住んでたっていう絃子ちゃんてのは、  
どんな子なんだ？

ユキ 友達……でした。

志保 でした？

ユキ 私と絃子が知り合ったのは、ネットを通じてでした。好きな作家さん  
が一緒に……。あ、赤宮ルイって知ってます？

拓海 いや、ごめん知らない。

翔太 結構前に流行った作家ですよ。読んだことありますよ。ファッション

ヨンセンスとかも独特でカルト的人気を博したとかいう……。

ユキ (急にテンションを上げて) そうなんです！ なんていうかこう、女  
の子の視点でしか描けないダークでキュートな世界観を持っています。

志保 そいつの話はいーから！

ユキ あ、すみません。知ってる人がいて嬉しくなっちゃってしまいました。

拓海 で、ネットで知り合って？

ユキ お互いに家を行き来するような仲になってたんですけど……。私のせいでいいんですけど疎遠になってしまつて……。でも今になって会おうと思つて。でも連絡先も変わつてて、連絡つかなくて。だから直接来ようと思つて。だけでもう住んでなくつて……。

拓海 手がかりを求めて翔太の家にとりあえず来てみたつてことか。

翔太 いつから疎遠なんですか？ ここに住んでたつて言つても俺の直前に住んでたとは限らないですしね。

ユキ 疎遠になつたのは、3年前くらいからです。

翔太 俺ここに引越してきたの3年前だから、ちょうど同じくらいか。

志保 ソエンつて何？

翔太 関係が薄くなつちやうこと。

拓海 志保はバカだなー。

志保 どーせ拓海もわかんなかつたくせに！

拓海 そんなことねーし！

志保 ででで？なんでソエンになつたの？同じ人好きになつちやつたとか？

ユキ ……。

志保 凶星？

ユキ 違います。

志保 じゃあ何？

ユキ ……。

翔太 まあ言いたくないなら無理して言わなくていいですよ。

ユキ すいません。

志保 えー。

拓海 写真とかないの？

ユキ 私が写真とか苦手で……。一枚もないんですよ。

拓海 写真苦手なのー？ そんなにかわいいのに？ もつたいない！ (志保を指して) こいつなんてことあるごとに写真撮りたがんに。

志保 ちよつとー！ それじゃあうちがブスみたいな言い方じゃん！

拓海 バカ！違つて！かわいいから写真撮るの普通だろ？ つて話だよ。

志保 あ、そつか。じゃあいいのか。ユキちゃん写真撮つてあげるよ！

ユキ え？

志保、ケータイで急に志保の写真を撮る。

志保 ほら、可愛く撮れた！

ユキ やめてください！

志保 えー可愛いのに。ほらもう1枚。(カメラをユキに向ける。)

ユキ 本当に！ やめてください！

志保 そんなに怒んなくても。

拓海 マジで嫌いなんだね写真。

ユキ すいません。

翔太 ま、とにかく山本さんの写真は無いってことですね。

拓海 写真ないんじゃない結構きついな。ま、でも名前わかってるから聞き込

みはできるな。

ユキ 聞き込み、ですか。

拓海 志保はこの辺のガールズバーで働いてんだよ！ だからさ、結構地元

客も多いわけ。だからその情報網でさ。

志保 おお！ 任せろ！ うちもう店長なしでも店回せるレベルだから！

……で、誰探すんだっけ？

拓海 バカだなお前は！ 絃子ちゃんだよ！

ユキ 山本絃子です。

拓海 何歳？

ユキ 私と同じ年で25歳です。

志保 えー！ マジで？ うちともタメじゃん？ 今年26？

ユキ そうです。

志保 なんだー！ タメか！ 年上かと思っただわ！ じゃあもう全然、敬語

とかいらねーから！ ね！ ユキちゃん！

ユキ はあ。

翔太 斉藤さん元々タメ語じゃん。

拓海 よし！ じゃあ青年探偵団！ 活動開始といくか！

翔太 あのさ、水さすようなこと言っている？

拓海 ん？

翔太 ノリノリのとこ悪いんだけど、マサに聞けばすぐ分かりそうじゃな

い？

志保 マサ？ 誰それ？

拓海　なんでマサがわかんんだよ！　マサなんてこの話自体知らないんだぞ。

翔太　あいつ不動産営業やってるでしょ？

拓海　うん。

翔太　俺、ここの物件マサに紹介してもらったから。

拓海　おお！

志保　マサって？

拓海　和田雅紀。翔太の小中時代の友達。俺も結構よく遊んでんだよ。

志保　マジか！

ユキ　そのマサさんって人に連絡すれば、紘子のことかわかるかもしれない  
ってことですね。

翔太　少なくとも、親が保証人になってたら実家の場所とか、後、多分勤め  
先とかもわかると思うけど。

志保　すげー！　マサすげー！

拓海　でもそーゆーのって個人情報じゃね？

翔太　まあね。お堅いあいつが教えてくれるかは不明だけど。

拓海　昔のよしみで！　な！　友情パワーで！な！

ユキ　お願いします。

翔太　じゃあ連絡してみるよ。

翔太、ケータイを取り出し、文字を打ち出す。

拓海　電話しろし！

翔太　え？

拓海　電話した方が早いじゃん！

翔太　いや、そうだけど。大した話じゃないし。

拓海　大した話だろ！なあ！　ユキちゃん！

ユキ　はい！

翔太　拓海が電話すれば？

拓海　別に言いけど、何だよ。何お前仲悪いのかよ？

翔太　違うけど。なんかあれじゃん。

拓海　何あれって？

翔太　いや、まあいいや。俺、電話するよ。

翔太、マサに電話をかける。  
翔太をじっと見つめる拓海と志保。

翔太 見すぎじゃね？  
拓海 気になんじゃん！

つながらない。

翔太 でないな。

メールの着信音が鳴る。

翔太 「今飲み会中。あとでかけ直す。」だって。  
拓海 飲み会中なら出るよなー！  
翔太 先輩とかと飲んでんじやない？  
志保 うちなら普通に出るけどなー。

ユキ、肩を落とす。

翔太 まあそんなに落ち込まないでください。どうせ電話繋がったってすぐには調べられないですし。

ユキ はい。

翔太 ……ということで、今日はこれでお開きにしましょう。

ユキ ……はい。

拓海 じゃあ来週の土曜日にまたここ集合な！

志保 よっしゃー！ うちも今週情報集めちゃうよ。

ユキ ありがとうございます。

翔太 はい。じゃあ解散。お疲れさまでした。

ユキ あの、連絡先教えてもらっていいですか？

拓海 おっけー。じゃあ俺とユキちゃんが交換して2人の連絡先送ってあげるよ。

ユキ あ、はい。ありがとうございます。

ユキ、拓海ケータイを取り出し連絡先を交換する。

ユキ ありがとうございます。

拓海 じゃあ後で2人の連絡先送っとくね。

ユキ (立ち上がって) はい。すいません色々。今日は本当にありがとうございました。

拓海 じゃあまた来週ってことで。時間はまた連絡するわ！

ユキ はい。お邪魔しました。

志保 ばいばーい！ またねー。

翔太 じゃあ、また。

ユキ、翔太に案内されつつ部屋を出る。

ユキ ありがとうございます。

扉が閉まる。

ユキ、しばらくドアを見つめ、去る。

拓海 志保も帰れば？

志保 たっくんは？

拓海 俺は泊まってくよ。

翔太 泊まるのかよ！ まあいいけど。

志保 じゃあうちも泊まる！

拓海 えー！

志保 何！ 嫌なの？ いいでしょ！ 翔太くん！

翔太 俺はいいけど。

志保 じゃあ決定！

拓海 あんまうるさくすんなよ。

志保 はあ？ うち基本静かだからね！

拓海 わかったわかった。

翔太 にしても、なんかよくわかんない人だったな。

志保 ユキちゃん？

拓海 可愛かったよな。

翔太 それに、なーんか会ったことあるような気もすんだよなー。  
拓海 あんな可愛い子会ってたら忘れなくね？  
翔太 まあ、そうか。  
志保 2人ともユキちゃん褒めすぎじゃね？  
拓海 大丈夫。志保も可愛いよ。  
志保 うん。  
翔太 まあとりあえずマサからの連絡待つか。  
拓海 そーだなー。  
志保 マサってどんな人？  
拓海 真面目？  
翔太 学級委員タイプ？  
拓海 大体予約とかあいつしてくれるもんな。  
翔太 すごい使いやすい。  
志保 翔太くと小中一緒なんだっけ？  
翔太 うん。  
志保 あ！卒アル見せてよ！  
翔太 えー？  
拓海 俺も見たい！ そーいや、お前の中学時代とか見たことねえや。  
翔太 まあいいけど。(棚を探しながら) どこしまったけな。あー。あつたあつた。  
あつた。

翔太、卒業アルバムを取り出して拓海に渡す。

翔太 はい。  
拓海 サンキュー。  
志保 翔太くんどれ翔太くんどれ？  
拓海 お前何組？  
翔太 3組。  
拓海 (アルバムをめくりながら) お、いたいた！  
志保 マジ？どこどこ？  
拓海 ここ。(アルバムを指差して)  
志保 本当だ！ 変わってない！  
翔太 そう？

拓海 まあ老けたよな。

翔太 そりゃそうだ。

志保 今の方がかつこいいかも。

翔太 ありがとう。

拓海 あ、マサも同じクラスなんだ。

志保 これがマサくんか。確かに真面目そう！

翔太 今だいぶ垢抜けたけどな。リア充？

拓海 確かに。結構変わったかもな。面影はあるけど。

志保 翔太くんの子が好きだったの？

翔太 は？

志保 同じクラス？

翔太 それ言わなきゃだめか。

志保 だめー。

翔太 同じクラスです。

拓海 よしっ！ 俺が当ててやろう。

志保 じゃあいっせいのせいで2人で指差してよ。

翔太 わかったよ。

拓海 ちよいまちちよいまち！ 考えっから！

拓海、アルバムと翔太を交互に見比べる。

翔太 それでわかんのかよ。

拓海 よしっ！ わかった！

志保 じゃあいくよー！ いっせいのせ！

翔太、拓海いっせいに同じところを指差す。

拓海 当たったー！ 今井茜ちゃんね！

翔太 よくわかったな。

志保 たっくんすげー！

拓海 単純に俺の好みの子を指した。

翔太 それで同じとか、なんかやだわー。

拓海 (別のところを指差して)この腹巻きらちゃんも候補だったけどな。

翔太 腹巻きさらら？

志保 (アルバムを覗いて) クソブスじゃん！

拓海 お前ブス専だろ？

翔太 違うし！

志保 つーかきららでクソブスって超かわいそう！ 絶対いじめられんじや  
ん！ なに腹巻ってクソウケる。そんな苗字あんのかよ！

翔太 実際腹巻さん、いじめられてたよ。

拓海 だろーな。デブだし。

翔太 ブスなら、せめて痩せろって感じだよな。

志保 わかるー。ブスでデブできららとかいじめられる要素しかねえ！

翔太 思い出した。俺修学旅行、この腹巻さんと回ったんだよ。

拓海 なんで？ そこは茜ちゃんだろ？

翔太 マサと同じ班だったんだけどさ、学級委員パワー発揮しやがって余つ  
た女子と組む羽目になったんだよ。

志保 修学旅行でクソブスと一緒にの班とか残念すぎる！

拓海 マサがブス専だったんじゃない？

翔太 確かにあいつの彼女ブスだもんな。

拓海 ひどっ！ お前！ ひどっ！ 今度マサに言ってやろ！

翔太 いや、言うなし。あいつそういうの本気で怒るから！

志保 ねーねー。今思ったんだけど。

拓海 ん？

志保 茜ちゃんてちょっとユキちゃんに似てね？

拓海 確かに！ 若干似てるかも！

翔太 そうかー？

拓海 お前ユキちゃんタイプなんじゃない？

翔太 いや、可愛いとは思うけど。

拓海 これ、あるな。

翔太 何が？

拓海 カップル成立がだよ！

翔太 ないだろ！

志保 なんか運命感じね？

拓海 な！ ドラマチックじゃん！

翔太 またアホなことを……。

志保 茜ちゃんの生まれ変わりとか？

翔太 勝手に今井さんを殺すな。もう結婚して幸せにやっってるわ！

拓海 連絡とってんの？

翔太 いや、フェイスブックで知っただけ。

志保 うちもたつくと結婚するー。

拓海 しねえよ！

志保 しろよ！

拓海 いや、しないだろ。多分。

志保 なんでそんなこと言うの？ ずっと一緒にいたいじゃん！

拓海 わかったわかった。ずっと一緒！ずっと一緒な！

志保 絶対だよ！

翔太、パソコンで何かを調べる。

拓海 何調べてんの？

翔太 いや、山本紘子。フェイスブックやってんのかなーって。

拓海 ああ。

翔太 まあなんか情報あつたら桂木さんがとつくに調べてると思うけど。

一応。

拓海 そうだな。

翔太はパソコンで、拓海と志保はケータイで調べだす。

翔太 だめだな。同じ名前の人いるけど年齢合わないし、それっぽいのは検索ひっつかかないわ。

拓海 ま、しょーがないな。

翔太 マサのフェイスブックはこーんなに充実してんのかな。

拓海 え？

翔太 ほら、早速今日の飲み会の写真アップされてるよ。

志保 (パソコンの画面を覗きながら)「今日は社会人サークルのメンバーとバブルサッカーした後、飲み会でした。新しいメンバーも5人くらい来ていました。やっぱり休日はいろんな人と会々と世界がどんどん広がっていきますね。」

拓海 いーなーバブルサッカー！俺もしたいなー。

志保 マサくん超リア充じゃん！

翔太 どうかね。最近多いらしいよ。若いうちに人脈を広げた方がいいとか  
なんとか言ってる、意識の高くい人たちが集まってこーゆーイベントみたい  
なことするの。

拓海 へえー。

翔太 で、そういう奴って絶対にその時の写真をSNSにアップすんの。ど  
んどけリア充アピールしたいんだっての。人間としての芯がないから誰か  
に見てもらわないと不安なんだろうな。

拓海 (笑って) お前ほんとリア充嫌いだな？

翔太 俺には絶対できないなあと思って、ちよー羨ましいだけです。

志保 まあうちはリア充だけだね！たつくんいるし。

翔太 どーせリア充じゃないのは俺だけですよー。

拓海 何拗ねてんだよ！だからユキちゃん狙っちゃ言ってんじゃん！

翔太 ないだろ。

志保 ユキちゃんかわいいじゃん！

翔太 だから俺みたいなやつは無理なんだって。

拓海 まだ全然わかんないじゃん！なんで決めつけんだよ。

翔太のケータイが鳴る。

志保 お！マサくん？

翔太 そうだね。フェイスブック更新する前に電話くれよって話ですよ。

拓海 確かに！

翔太、ケータイに出る。徐々に照明が暗くなる。

翔太 あー、もしもし、うん。ごめんね急に。……そうそう。ちよつと相談  
があつてさー。

暗転。

## ○第二幕

「シャボン玉」の音楽がかかる。(ロック風アレンジ)

ユキにスポットがあたる。

シャボン玉を吹くユキ。

口ずさむように歌いだす。

ユキ シャボン玉消えた

飛ばずに消えた

産まれてすぐに

こわれて消えた

ユキ、シャボン玉を吹くそぶりをするが、シャボン玉は出てこない。

ユキ あーあ。失敗だ。

もう一度シャボン玉を吹く。今度は成功。

ユキ あ、できた。

ユキ、シャボン玉を眺める。

シャボン玉はやがて消える。

ユキ 消えちゃった。

ユキ、去る。

暗転。

またある日の土曜日の夜。

部屋でくつろぐ翔太と拓海。

翔太はパソコンの前に座っている。

パソコンの横には赤宮ルイ著「虹色の鼓動」が置いてある。

拓海はテレビの前でゲームをしている。

拓海 なあ。

翔太 ん？

拓海 ユキちゃん、いたじゃん？

翔太 うん。

拓海 なんてあの日来なかったんかな。

翔太 さあ？

拓海 もうあれから2ヶ月だぜ？

翔太 うん。

拓海 あれから何度連絡しても、1回もデート行ってくんねーんだよ。

翔太 デートって？ お前個人的に誘ってたのかよ！

拓海 だって可愛かったんだもん！

翔太 お前なー。また斎藤さんに怒られるぞ？

拓海 いいんだよ。もう別れたから。

翔太 はー？

拓海 うるさいから。別れたの。

翔太 マジかよ。いつ？

拓海 先週の土曜。

翔太 先週？ そうだよ。先週斎藤さんうち来てたじゃん！

拓海 ユキちゃん来た日あるでしょ？

翔太 うん。

拓海 あの日以来あいつも毎週ここ来てたじゃん。

翔太 そうだね。毎週2人ともきてた。

拓海 俺はよ！毎日休みなしであいつに会ってるわけ！ 平日はうちにいて、

休日ここに逃げてきてたのに。この逃げ場まで追ってきたわけ！ わかる？

翔太 なるほどなー。

拓海 お前、志保と付き合えば？

翔太 は？ 何言ってるの？

拓海 あいつ頼めばすぐやらしてくれるぜ？

翔太 ……。

拓海 あ、今お前ちよつと考えたろ？

翔太 考えてないわ。

拓海 まあやらしてはくれるけど、その後が面倒だわな。

翔太 リスク高っ。

拓海 あーあ。ユキちゃんはリスクも低そうだし、うまく落とせると思ったんだけどなー。会って2、3日は、全然普通に連絡返してくれてたのに。

翔太 そう。

拓海 あーあー。なんか面白いことないかなー。最近工場いるかゲームするかしかしてねえよ。

翔太 俺も会社と家の往復だよ。

拓海 またピンポン！つつつて面白い人が来ないかなー。

翔太 あんなもん、一生に一度あるかないかだろ。

拓海 まあーなー。

翔太 まあ、マサみたいにあっちこっちで歩いてりやチャンスも多いんだろーけど。(パソコンを指差し) ほら、あいつ今日もボルダリングとかやってんぜ？

拓海 俺人見知りだからなー。そーゆーのはなー。

翔太 嘘つけ。斎藤さんと付き合う前は毎晩クラブで女ナンパしてたくせに。

拓海 クラブの女は飽きたんだよなー。

翔太 なんだそりゃ。

拓海 また志保みたいなのに捕まってもあれだし。

翔太 そーゆーもんか。

拓海 あ、閃いた！

翔太 何？

拓海 山本紘子に連絡してみよーぜ？

翔太 は？

拓海 ここに住んでた訳だし、ユキちゃんの知り合いだし。マサから現在の住所と連絡先も入手してる訳だし。

翔太 やめとけよ。

拓海 いいじゃないいいじゃん。今度は俺たちがユキちゃんを探してるってことにしてさー。

翔太 マサに怒られんぞ。たまたま山本さんがマサとこの不動産会社利用してたから今の住んでる場所とか連絡先もわかったけど。ユキちゃん以外に教えないって約束で渋々教えてくれた訳で……。

拓海 でもそのユキちゃんが音信不通な訳じゃなか。

翔太 だからユキちゃんが来なかった時点でこの話はなかったことにしよう

ってなっただろ？

拓海 ん？ お前今ユキちゃんって言ったな。

翔太 え？

拓海 お前絶対女子は苗字でさんづけで呼ぶのに今ユキちゃんって言った！

翔太 拓海につられただけだよ。

拓海 怪しいな。この間はずつと桂木さんって言ってたはずだ！

拓海、パソコンデスクに置いてあった翔太のケータイを奪う。

拓海 ケータイチェック！

翔太 は？ 何してんだよ！ お前！ やめろよ！

翔太、本気で怒る。

拓海 ガチで怒ってんじゃない！ ってことは絶対なんかあんじゃん！

翔太 何もねーよ！ 普通見ねーだろ人のケータイ！

翔太、必死で抵抗するも拓海にケータイを操作されてしまう。

拓海 はい残念！ お前の誕生日でロック解除！

翔太 本当やめろってお前！

拓海 は？ は？ は？ 何これ？ どーゆーこと？ めっちゃユキちゃん  
と連絡とってんじゃない！

翔太 やめろって！

翔太、拓海を殴りケータイを奪い返す。

拓海 行ってー。ガチ過ぎんだろ。

翔太 知るか！

拓海 さあ！ 親友に隠し事はなしだぜ？ どーゆーことか説明してもらおうか！ おう？ おう？

志保がチャイムを鳴らす。

翔太 あ、誰か来た。

拓海 お前、逃げんなよ！ 絶対話してもらおうからな！  
翔太 うるさいなー。はーい。

翔太、玄関へ向かう。

翔太がドアを開ける前に志保がドアを開ける。  
靴を確認する志保。

志保 たっくん！

翔太 あ。

拓海 え？ なんでお前ここにきてんの？

志保 ごめんね。翔太くん。上がらせてね。

志保、部屋に入る。

志保 たっくん、この一週間一回も家に帰らなかったでしょ？

拓海 あ、ああ。

志保 私ずっと待ってたのに！

拓海 マジかよ。てか鍵返せよ！

志保 なんでよ！ なんで電話出ないの！

拓海 もう別れたんだから別にいいだろ？

志保 うちが良くない！ 返事してないじゃん！ 一方的に別れようって連絡してきただけじゃん！

拓海 でも分かるだろ？

志保 やだ！ 別れない！ ずーっと一緒にいるの！

拓海 落ち着けて。

翔太 斉藤さん、まあ残念だけど別れは別れだよ。

拓海 そーゆーこと！

志保 なんで？ なんでよ？

拓海 別に何ってことはないよ。

志保 嘘だ。

拓海 はあ？



志保 マジかー！

翔太 ユキちゃんが隠せて言うから隠してた。ごめんな。

拓海 志保、包丁しまえよ。

志保 あ、うん。(包丁をしまう)

拓海 いつから？

翔太 2か月前から。

志保 出会ってすぐじゃん！

翔太 最初の土曜が来る前にユキちゃんから連絡があった。もっと早めに会えないかって。

拓海 俺の誘いは断ってたくせに。

翔太 俺も、マサから情報はもらってたし、それで話が済むなら早いと思っ  
て会うことにしたんだよ。

拓海 言えよ！ それは！

翔太 いや、別にいいかなと思ってき。それで飯食いながら山本さんの話と  
かして、なんか帰り際また会えませんかっていうから、いいよって言って、  
そんで何回か飯行ったりするうちに付き合うことになった。

志保 うおー！ おめでとー！

拓海 赤い糸きたなこれ！

翔太 だから俺たちのことは放っておいてくれ。

拓海 なんで隠すのかなー。

志保 うち、わかっちゃったよ。

翔太 何が？

志保 これ、まじビビるよ！

拓海 なんだよ。

志保 桂木ユキ！ 幽霊だった説！

翔太 は？

拓海 幽霊？ユキちゃんが？そんなわけ……。

志保 本当はダメって言われてたんだけどー。たつくんがユキちゃんと浮気  
してると思って、ユキちゃんの居場所探るために山本紘子に連絡したんだ  
よねー。

拓海 嘘だろ？

翔太 電話したの？

志保 うん。桂木ユキちゃんを探してるって言ったの。

翔太 そしたら？

志保 ユキちゃんは、5年前に殺されましたって。

拓海 は？

間。

志保 山本紘子ちゃんは山本桜って芸名でユキちゃんと一緒に地下アイドルみたいなことしてたばいんだけど。やめて元マネージャーと結婚したんだって。

翔太、パソコンで桂木ユキを調べる。

翔太 本当だ。古い記事だけど事件になってる。桂木ユキ……。ファンによる刺殺……。幽霊？嘘だろ？

拓海 いやいやいやいやいや透けてなかったもん！透けてなかったもん！

志保 ちょっと待ってちょっと待って。顔！顔が違う！

翔太 確かに。この地下アイドルの桂木ユキと俺の彼女になった桂木ユキの顔は違う。

拓海 一体誰なんだあいつは？

志保 こわっ！

翔太 いや、喋ってたら本当普通の……。

拓海 呼ぼう！ユキちゃんを！

志保 聞いた方がいいよ。誰なのー？って。

翔太 ……。

拓海 お前が電話しなきゃ来ないぞ。

翔太 もし、桂木ユキが別の誰かでもいいじゃんか。

拓海 お前。

翔太 俺は、あいつとちゃんと付き合った。もしあいつに後ろめたいことがあるなら、俺はあいつから言ってくれるまで待つ。

拓海 えらいな。

志保 えー。うちは隠し事とか絶対やだなー。

拓海 それぞれ事情ってもんがあんの。

志保 うちにも事情がある。だからやりなおそ？

拓海 それは無理。

志保 なんでよ！

拓海 翔太！ 悪い！ 今日帰るわ！ じゃ、また！

拓海、ドアの方へ向かっていく。

拓海 志保、追いかけてくんなよ。

志保 ……。

扉の閉まる音。

翔太、パソコンの前でキーボードを叩く。

志保 面白い？それ？2ちゃん？

翔太 ん？ まあ。色んな奴が色んなこと考えてるからな。

志保 ふーん。

翔太 斉藤さんはなんで人は生きてると思う？

志保 は？ なにそれ？ むずくね？ お金？ 愛？

翔太 承認だよ。

志保 承認？

翔太 人は人から認められるために生きてるんだ。だからマサはフェイスブックで自分の充実さをアピールし、拓海はすぐなんか面白いこと、なんか楽しいことをやろうとしたがる。斉藤さんだってそうさ、拓海に承認されたい認められたいって思うことが生きる意味なんだ。

志保 うーん。よくわかんないけどそーかも。

翔太 アイドルだった桂木ユキはその行き過ぎた承認欲求の果てにファンに殺された。

志保 翔太くんは？ 誰に認められたいの？

翔太 俺？ 俺はみんなかな。

志保 みんな？

翔太 みんなに認めてほしいさそりゃ。できるできないは別としてね。

志保 ねえ翔太くん。

志保、翔太をパソコンチェアから引き摺り下ろす。

そして抱きしめる。

志保 うちのこと承認してよー。

翔太 どーゆーこと？

志保 寂しいの。ずっとぼっかり穴が空いてるの。

翔太 うん。

志保 だから慰めて。

翔太 誰でもいいのかよ。

志保 翔太くんだからいいんだよ。

翔太 拓海の代わりにはなれないよ。

志保 なんでそんなこと言うの。

翔太 あいつ頼めばすぐやらしてくれるぜ？

志保 ……何それ。

翔太 拓海が言ってたの。

間。

志保 はあ？ 本当に？ たっくんがそう言ってたの？

翔太 ああ。

志保 (立ち上がったって笑顔で) ちょっと、たっくん殺してくるね。

翔太 いやお前殺すのは……。

志保 うそうそ。殺さないって。じゃあ、またね。お邪魔しました。

翔太 ……。

志保、一人でドアを開け出て行く。

翔太、ケータイを取り出し、ユキに電話する。

翔太 あーごめん。今からうち来れない？ ……うん、大丈夫。2人ともいない。うん。ごめんね。じゃあ待ってるわ。

翔太、ケータイを閉じる。

またパソコンの前に向かいキーボードを叩く。

玄関の外。志保を待ち構えていた拓海。

志保 え？ たつくん。どうして？  
拓海 やったの？ 翔太と。  
志保 え？  
拓海 どうなのよ。  
志保 サイテー。  
拓海 じゃあしたんだ！  
志保 してません！  
拓海 ふーん。  
志保 何？ そんなこと聞くために戻ってきたの？  
拓海 いやー。  
志保 じゃあ何？  
拓海 もしだけど、もし。  
志保 うん。  
拓海 ユキちゃんが結婚詐欺師だとしたら。  
志保 え？ そんなことあるー？  
拓海 だってよ。うまく行き過ぎだって。俺が手も足も出なかったユキちゃん  
んが翔太にコロッと行くなんて。ありえない。  
志保 どんだけ自分に自信あるわけ？  
拓海 逆だ。翔太がそーゆーの苦手すぎるんだ。  
志保 まあ、そんな感じはあるけど。  
拓海 あいつが騙されんのはむかつく。  
志保 むかつく！  
拓海 だから俺たちで桂木ユキの正体を暴く。  
志保 えー！  
拓海 お前、山本紘子に連絡したんだろ？  
志保 うん。  
拓海 もう1回連絡するんだ。会って話をしよう。  
志保 でも……。  
拓海 何か手がかりがつかめるかもしれない。俺とお前なら出来る！な！  
志保 ……できる！  
拓海 なんか。  
志保 ん？

拓海 別れた後にこんなこと言うのも変だけど、  
志保 うん。

拓海 志保が翔太とやってなくて安心した。

志保 え？それってどーゆー……。

拓海 大した意味はない。復縁もしない。

志保 何それー！

拓海 うるさい。黙れ。ついてこい！

志保 ……ついてく！

拓海、志保、去る。

2人が去った後、ユキが現れる。

チャイムを鳴らす。

玄関に向かう翔太。

翔太 はい。

ユキ うん。私。

翔太、扉を開ける。

翔太 ごめんね。急に呼び出して。

ユキ ううん。家近いし。ちょうど暇してたから。お邪魔します。

ユキ、中に入る。

ユキ どうしたの急に？

翔太 いや、なんか会いたくってさ。

ユキ 嬉しい。翔太くん普段そういうの言ってくれないから。

翔太 あ、あぁごめん。

ユキ 珍しいね。

翔太 え？ まぁ確かにあんまり俺から誘ってなかったかもな。

ユキ そうじゃなくて。土曜日でしょ？ 絶対拓海くんいると思った。

翔太 あぁ。なんだろね、あいつ。毎週いるからね本当。

ユキ 勝手に来るの？

翔太 いや、なんとなく俺が誘ってるのかな。

ユキ そうなんだ。

翔太 うどんあるよー。とかカレー作ったよーとか新しいゲーム買ったよーとか。

ユキ それで拓海くんも暇だから来るってことか。

翔太 彼女いてもそれだから困っちゃうよな。

ユキ でも男同士の方が楽しいって人いるから、なんとなくわかるかな。

翔太 まあね。あいつが女に困ってるんの見たことないからなー。

ユキ (パソコンデスクの本を見て) あ! 「虹色の鼓動」! 読んでくれたんだ! 赤宮ルイの最新作!

翔太 読んだよ。結構エグいエロさだったね。

ユキ そう! なんか「私を見なさい!」って感じのこう、極彩色ばっかの感じ!

翔太 ちょっと読むのしんどかったけどインパクトは強かったよね。

ユキ ありがとう。

翔太 え?

ユキ いや、私に興味合わせてくれてるのかなーって。

翔太 まあ合わせてないって言ったら嘘になるけど、実際本好きだしね。これで昆虫が趣味ですとか言われちゃうとちょっと合わせられないけど。

ユキ 昆虫の趣味はないですー。

翔太 ご飯食べた?

ユキ うん。食べてきた。

翔太 お酒飲む?

ユキ ……う、うん。

翔太、冷蔵庫へ行く。

翔太 ユキちゃん、ワイン飲めるんだっけ?

ユキ うん。飲めるよ。

翔太 赤白どっちが好き?

ユキ 白……かな。

翔太 りよーかい。

翔太、白ワインとグラスを二つ取り出す。

翔太 あーつまめるもんじゃないな。買ってこようか？

ユキ いや、いいよ。

翔太 そう？

翔太、テーブルにグラスを置き、ワインを注ぐ。

翔太 じゃあかんぱーい。

ユキ 乾杯。

グラスを合わせる翔太とユキ。

翔太 なんかき、別れたんだって。

ユキ え？

翔太 拓海と斎藤さん。

ユキ あー。そうなんだ。

翔太 まあ拓海は未練なさそうだったけど、斎藤さんの方は大変そうだったね。

ユキ なんか、依存してる感じあったもんね。

翔太 そうそう。

ユキ 翔太くんは依存とかしなさそうだね。

翔太 俺はなるべく客観的にものを見ようとしてるからね。

ユキ 客観的に？

翔太 そ。自分を外から見るわけ。そーすると自分がいかにちっぽけかわか  
つてさ。何かに熱中したりとか、認められようとかって努力することとか  
が恥ずかしくなんの。

ユキ そーゆーものなの？

翔太 そう。

ユキ 私はね、逆。全部主観になっちゃうな。人探しで知らない人んち押  
しかけるとかはたからみたら変な人だもんね。

翔太 確かに。あん時拓海が覗いてかわいいから中入れようぜって言わなき  
や、出会うこともなかったもんなあ。

ユキ ……そうなんだ。

翔太 俺覗いてなかったからね。顔見てなかったし。

ユキ そっか。

翔太 うん。そーいえば山本さんには挨拶行けた？

ユキ うんうん。まだ行けてない。勇気が出なくて……。

翔太 そっか。

ユキ もし……。もしさあー。

翔太 うん？

ユキ あ、いや。なんでもない。

翔太 どうしたん？ 酔った？ お酒弱いんだっけ？

ユキ うん。あんま強くないかも。

翔太 ちよつとベッドで横になれば？ 水持つてこようか。

ユキ ベベベベベベッドに横に？

翔太 え？俺なんか変なこと言った？

ユキ あ、あの、あのさー。

翔太 うん。

ユキ あ、私、今日。付き合ってから初めて翔太くんち来たの。

翔太 ……うん。

ユキ うん、ごめん、あの、その、こう。

翔太 うん？

ユキ あの！ ね！恥ずかしいんだけど。その、その、私、（小声で）初めて

……なの。

翔太 え？ 何？ 聞こえなかった。

ユキ だから！ その、初めてなの。

翔太 え？

ユキ だから、その、順番とか、ムードとか。よくわからなくて……何をど

う……。

翔太、ユキに抱きついてキスをする。

ユキ え？

翔太 （頭を撫でて）大丈夫。今、すごいかわいいよ。

ユキ ン。恥ずかしい。

翔太 大丈夫。客観的に見て俺も恥ずかしい。

暗転。

### ○第三幕

童謡「シャボン玉」の音楽がかかる。

ユキにスポットがあたる。

シャボン玉を吹くユキ。

吹かれたシャボン玉を割る翔太。

ユキ、口ずさむように歌いだす。

ユキ シャボン玉飛んだ

屋根まで飛んだ

屋根まで飛んで

こわれて消えた

シャボン玉消えた

飛ばずに消えた

産まれてすぐに

こわれて消えた

明転。

またある日の土曜日。

部屋でくつろぐ翔太と拓海。

翔太はパソコンの前に座っている。

拓海はテレビの前でゲームをしている。

翔太 お前、斎藤さんとヨリ戻したの？

拓海 いや。何で？

翔太 最近よく会ってるっばいから。

拓海 戻してないけど。ちよつとな。

翔太 何だよ。

拓海 今日あいつ来るからそんとき話すよ。



翔太 お、そ、そうか。やった。やったな。

ユキ ……喜んでくれるの？

翔太 そ、そりゃ、もちろん。

ユキ よかった。

拓海 ごめんごめんごめんごめんごめん。ちよつと待ってちよつと待って。

ユキ え？

拓海 ユキちゃん！

ユキ はい？

拓海 本当に妊娠してるの？

翔太 おいっ！

拓海 いいから！

ユキ はい。

拓海 翔太、すまん。

翔太 え？

拓海 俺、実はユキちゃんが結婚詐欺師なんじゃねえかって疑ってたんだ。

ユキ 詐欺だなんて……。

翔太 はあ？

拓海 それで志保と一緒に調べてた。

翔太 え？

拓海 ちよつと待ってろ。

拓海、ケータイを取り出し志保に電話する。

拓海 ああ、もしもし？近くにいんだろ？ 入ってこいよ。うん。そう。すぐだ。

翔太 どーゆーことだ？

チャイムが鳴る。

拓海 空いてるよー。

ドアを開け、志保が入ってくる。

志保 お邪魔します。

拓海 志保には時間があるときユキちゃんの尾行をしてもらってた。

翔太 尾行？ お前なんでそんな。

拓海 なあユキちゃん！ もし妊娠が本当なら翔太に言わなきゃいけないことがあるんじゃないか。

ユキ ……。

翔太 ユキちゃん？

志保 あのねー翔太くんはアイドルの桂木ユキが死んじゃってるの知ってるんだよ？

拓海 それでも何も聞かれなかっただろ？ こいつは待ってたんだ。ユキちゃん自分が話すまで！

ユキ ……。

志保 うちらもう全部分かってんだからね！

ユキ ……。

拓海 ユキちゃんが言わなくても、俺たちが言う。どうせばれるんなら自分の口から言ったらどうだ？

ユキ ……ごめん！ 翔太くん！

ユキ、外に向かって走り出す。

翔太 ユキちゃん！

翔太、ユキを追おうとする。

止める拓海。

拓海 追うな！

翔太 何で？

拓海 俺たちの話を聞け。その上で追うかどうか決めろ。

翔太 何だよ。

拓海 山本紘子に会ってきた。

翔太 それで？

拓海 ユキちゃんの写真を見せた。

志保 知らないって言った。

拓海 でもユキちゃんはこの部屋に来たことがあると言ってたし、実際ベッドの位置とかも当たってた。

志保 下に住んでる強面のおじさんはマネージャーさんだったんだってー。

翔太 じゃあ山本さんの友達ってのは本当ってこと？

拓海 そうだ。そう思った俺はこれを見せた。

拓海、赤宮ルイ著「虹色の鼓動」を手に取る。

拓海 2人が仲良くなったきっかけ赤宮ルイ。

志保 そしたら思い出してくれたんだよー。疎遠になった子の名前。

拓海 それが……。

翔太 聞きたくない！

志保 なんでよ！ だって妊娠しちゃったんだよ？ 責任取んなきゃいけないんだよ？

翔太 だから聞きたくないんだ！

拓海 いいか！ ちゃんと聞けよ！ 桂木ユキの正体は、腹巻きからだ！

翔太 ……。

拓海 腹巻きからは整形した！ 顔が変わっちゃったから山本絃子に会えなくなっただ！

志保 でね、うち結構頑張って尾行してたんだけど、きららちゃん？自分の名前前気で全部変えようとしてたみたいよ。

拓海 腹巻とか、ヤベエ苗字だと申請すれば変えられるらしいぞ。

志保 多分、桂木ユキにするんだろうねー。

翔太 ……桂木ユキが死んだって聞いた時、整形は確かに疑った……。でも腹巻だなんて……。あのブスだなんて……。

志保 今はめっちゃ可愛くなってるけどねー。

翔太 そういう問題じゃねーだろ！

拓海 じゃあどーゆー問題だよ？

翔太 いや、ないないない。いや無理だろ。あんなクソブスと……。

拓海 いい子じゃん？

翔太 どこがだよ！ ずっとあいつは俺のこと騙してたんだ。

志保 赤ちゃん、墮ろしてもらおうの？

翔太 ……。知らねーよ。

志保 ちゃんと、しなきゃだめだよ。

翔太 うるせーな。

志保 赤ちゃん堕ろすのって、本当に辛いんだからね……。

翔太 あー！ なんだよもう！ わかったよ！ わかった！ もう結婚だ。客観的に見てそうだろ？ 子供できちゃったならしよーがないもん。それ以外全部俺悪者だろ？

間。

翔太 それでいいんだろ？

拓海 俺に聞くなよ。

翔太 お前にとってゆうか一般論を言ってるだけだつて。

拓海 一般論とかじゃなくて、お前がどうしたいか、どうするかだろ？それが誠意だろ？

翔太 いやいや客観的に見るべきポイントだろここは！

拓海 客観客観うるせえな！ 現実見ろよ！ こんなもんばっかじゃなくつてさあ！

拓海、翔太のパソコンを勝手にいじる。

翔太 何してんだよ！

拓海 それはこっちのセリフだ！なんだこの掲示板はよ！

翔太 ……。

拓海 これ、お前だよな？

翔太 なんで、それ。

拓海 見られなくなかったら非公開なとこでやれつての。結局お前もどっかの誰かに見てもらいたいんだろ？

志保 まあ見つけたのは偶然だけどね。うちが桂木ユキについて調べまくってる時に、「家に、突然、かわいい女」とか打ったら出てきたから。

拓海 ここに出てくるバカゲーマーって俺のことだよな？

志保 うちのことメンヘラヤリマン女って酷すぎじゃない？

拓海 こんなとこに閉じこもってっから現実見れなくなんだろ！言いたいこ

とあんなら直接言えよ！

翔太 違うんだ……。

拓海 何が？

翔太 別に本心でそう書いてるわけじゃなくて。

拓海 じゃあなんだってんだよ！

翔太 言い訳……するわけじゃないけど、本当は、本当にお前やマサのことを羨ましいと思ってる。自分に自信がないから、正面から自分を見られな  
いから。客観とかいう言葉を使って逃げてるんだ。上からの視点とか言っ  
て……。自分にできないことをするやつをバカにして……。

拓海 はいストップ！

翔太 え？

拓海 難しいこと言われるとわかんなくなる！あんまりいっぱいしゃべんな  
いでくれ！

翔太 ええ？

志保 バーカ！

拓海 だけどさ、まあ俺バカだし、頭いいやつが何考えてるかは知らねーけ  
ど！ 見下されても構わねーけど。言うなら直接言えよな！ ……別に毒  
舌なお前も嫌いじゃないぜ？ 俺は。来週またここでゲームする予定だし。  
俺は俺の見たお前を信じる。

志保 うわーたつくんやっべー！ やっぱめっちゃいいやつ！

翔太 ……ごめん。

志保 ちなみにこの掲示板、ユキちゃん知ってると思うよ。

翔太 え？

志保 見つけた瞬間うちが切れてソツコーURL、たつくんとユキちゃんに  
送ったから。

翔太 は？

志保 だから、翔太くんが「今時赤宮ルイとかないわー。本だけ買ってネッ  
トのロコミだけで話し合わせた。」とか書いてんの知ってるよ。

翔太 嘘だろ？

志保 嘘じゃないよ。ユキちゃんは翔太くんの本性知りながら付き合ってた  
ってこと。まあうちらもだけど。

翔太 これを知ってて……。付き合ってた？

拓海 言いたいこと、あるんだろ？ 言ってくれば？

間。

翔太 バカのくせに、なにカッコつけてんだよ。

拓海、微笑む。

志保 ほら！ 行ってこいよ！ 包丁、貸すよー？

翔太 いらねえよバカ！

志保、微笑む。

翔太、ドアに向かって走る。

暗転。

#### ○第四幕

幕が閉じ、幕前にて。

舞台中にシヤボン玉が舞う。

舞台上手にユキ。

下手から翔太が走ってくる。

翔太 ユキちゃん！

ユキ、振り向く。

ユキ 翔太くん……。ごめんなさい。

翔太 全部聞いた。お前が腹巻きからだってこともわかった。

ユキ ……ごめん、ずっと言い出せなくて。

翔太 だけどお前からは、なにも聞いてない。

ユキ え？

翔太 お前がなにを考えてるか知りたい。

ユキ ……。

翔太 お前の言葉が聞きたいんだ。

間。

ユキ ……私、話すの下手だよ？

翔太 それでも、いい。聞く。

ユキ ……私は、私はすごい楽しかったんだあの、あの修学旅行。翔太くんは本心で、私のことブスだとかキモいとか、そんな風に思ってたでも、それでも、普通に接してくれた。それが、なんていうか、それだけで嬉しくて…。でも翔太くんが今井さんのこと好きなのも知ってて、どうせ無理だつてわかってて。でも私の人生では一番の輝いてた時で。その、その後桂木ユキってすごい頑張ってるアイドルに出会って、すごいなって思ってた、私もこんな風になりたいって思ってた、ずっと応援してて、紘子ちゃんっていう友達もできて、すごい、こう、充実してた、そう、充実してたんだけど。就職活動で、私、全然ダメで。ほんともう、全部落ちちゃってたんだけど、ある日、聞いてちゃったの。面接官が、「あんなブス採用したら、社の恥」だって。それ聞いて、もう嫌になって、しばらく引きこもりみたいになっちゃって。そんな時に憧れの桂木ユキちゃんも殺されちゃって、「ああもう死のう」と思ったんだけど、でも死ねなくて、悔しくて。そんな時思い出して、紘子ちゃんアイドルになる時プチ整形したつて。整形したら人生変わると思って、頑張つて、ダイエットもして、バイトもしてお金貯めて整形手術して、その時、どんな風になりたいか考えた時に、思い浮かんだのが、今井さんで、少しでもそんな風になれたらつて思ったんだけど。整形したら、もう昔の人には会えなくて、かわいいつて言ってもらえるようになったけど、それはどこの誰かもわからない今井さんに似た何かなわけ、私は誰なんだろうつて？私、生まれてきちやいけなかったのかなつて思つて。でも死ぬ前に紘子ちゃんには、お礼が言いたくて、紘子ちゃんのこと調べて、そしたら偶然、翔太くんが住んでること知つて…。死ぬ前に、ちよつとだけでも、幸せな思いしたいつて思つて、だから、本当にこの何ヶ月かは幸せで、でも、だから自分じゃない誰かを愛してる翔太くんを見るのも嫌で、でも、どうすればいいかわからなくて、でも好きなの！私、翔太くんのが大好きなの！

間。

翔太 俺は、今、正直、混乱してる。整形とか赤ちゃんとか結婚とかもう頭がぐるぐるしててよくわからなくなってる。全然冷静じゃない。だから率直に思ったことを言う！ 正直！ 整形の話聞いた時はムカついたし、この数ヶ月あのクソブスと過ごしてたと思うと恥ずかしくてたまらなかった。しかも赤ちゃんとか聞いて、もう生まれてくる子絶対ブスじゃんとか、結婚しなきゃ俺、悪者じゃんとか考えた。でも事実なのはこの数ヶ月俺も本当に楽しかったってこと。ユキちゃんのことを本当に好きだったってこと。赤ちゃんできたって聞いて嬉しく思ったってこと。だから！ 今俺が言いたいことは！ 言いたいことは……。

翔太、駆け寄ってユキを抱きしめる。

翔太 特にないっ！

ユキ え？

翔太 ただ！ 今！ お前と！ キスがしたい！

翔太、ユキにキスをする。

暗転。

童謡「シャボン玉」の音楽がかかる。(ロック風アレンジ)

ユキ シャボン玉飛んだ

屋根まで飛んだ

屋根まで飛んで

こわれて消えた

シャボン玉消えた

飛ばずに消えた

産まれてすぐに

こわれて消えた

風、風、吹くな

シャボン玉飛ばそ

幕。